

通し番号	4 2 3 5
------	---------

分類番号	18-54-22-06
------	-------------

(成果情報名) センチピートグラスによる耕作放棄地の草地化

[要約] 耕作放棄地の放牧利用のため、省力的な草地の造成法としてセンチピートグラスの不耕起造成法について検討した。

センチピートグラスの被度は年々増加し、造成3年目の秋に実施した植生調査結果では、センチピートグラスの被度は43.9%、積算優占度は26.7でともに1位であった。センチピートグラスが定着した場所では密に広がり、センチピートグラス主体の草地となった。

(実施機関・部名) 神奈川県畜産技術センター 畜産工学部 連絡先 046-238-4056

[背景・ねらい]

本県では、「神奈川県農業推進条例」を定め、耕作放棄地の有効利用の促進を図っており、耕作放棄地の解消方法の一つとして、放牧による利用が期待されている。そこで、耕作放棄地の放牧利用のため、省力的な草地の造成法として、荒廃地におけるセンチピートグラスの不耕起造成方法について検討した。

[成果の内容・特徴]

- 1 放牧は、平成16年度は84日間、平成17年度は113日間、平成18年度は120日間行い、牧養力はそれぞれ、49.1、132.3、143.0カウデイ(CD)/10aであった。(表1)
- 2 毎年秋のセンチピートグラスの被度は、造成1年目は3.3%、2年目は12.2%、3年目は44%となり、年々増加した。(図1)
- 3 草地全体の被度も、1年目は30.2%、2年目は66.7%、3年目は81.7%とセンチピートグラスの被度の増加に比例して増加した。(図1)造成3年目の秋に実施した植生調査では、11種類の草種が観察され、センチピートグラスの被度及び積算優占度は、43.9%及び26.7でともに1位となった。(表2)
- 4 センチピートグラスが定着した場所では密に広がり、他の草種の侵入が少なかった。(図2)

[成果の活用面・留意点]

- 1 造成3年目でセンチピートグラス主体の草地となった。
- 2 エサ場、水場の周囲は牛道となり裸地が多くなった。
- 3 ギシギシが繁茂し、除草を行った。

[具体的データ]

表 1 放牧実績

年度	放牧期間	放牧日数	延べ放牧頭数(頭)		牧養力 (CD/10a)
			繁殖牛	育成牛	
16	5/26～10/8	84 日間	165		41.9
17	4/24～10/21	113 日間	110	136	132.3
18	4/19～10/4	120 日間	240		143.0

注) 1CDは、体重500kgの成雌牛を1日1頭放牧で維持できる草地の生産量を示す単位(TDN換算で4.5kg)

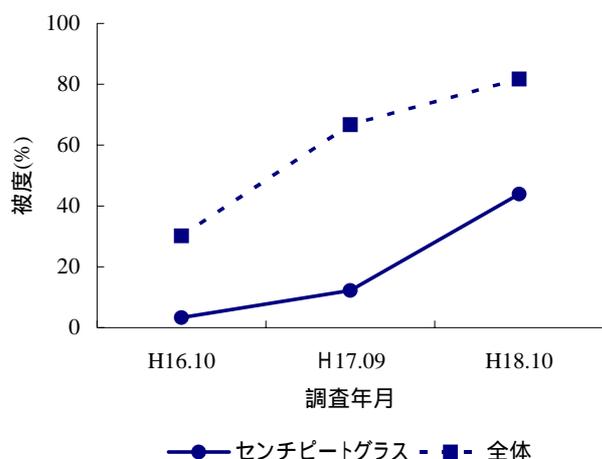


図 1 センチピートグラスの被度の推移

表 2 造成 3 年目秋の植生調査結果

草種名	被度(%)	草高(cm)	積算優占度
センチピート	43.9	7.5	26.7
メヒシバ	15.0	18.9	16.2
オヒシバ	6.1	16.7	10.5
ギシギシ	7.8	11.3	9.1
キハマスゲ	11.1	6.7	8.8
シロザ	0.8	15.0	6.9
エノコログサ	0.2	15.0	6.6
カキドオシ	4.7	5.0	4.7
カタバミ	3.1	6.4	4.5
オオイヌノフグリ	0.7	7.5	3.6
タンポポ	0.1	5.0	2.2



図 2 定着したセンチピートグラス

- [資料名] 平成 18 年度試験研究成績書 (繁殖工学・乳牛・肉牛・飼料作物)
- [研究課題名] 耕作放棄地の草地利用方法の開発
- [研究期間] 平成 13～18 年度
- [研究者担当名] 折原健太郎・秋山清・水宅清二